

開発者による開発者のためのカンファレンス

Seasar Conference 2009 White

Presented by The Seasar Foundation and the others

designed by カネウチカズコ



夢見るゆみる

~1.0リリースでYmirアプリ開発がどう変わるか~

Ymirプロジェクト プロジェクトリーダ
(株)アークシステム
横田 健彦 (a.k.a. Skirnir)





自己紹介





- 横田 健彦 (よこた たけひこ)
 - ネット上ではSkirnir(すきーるにる)と名乗っています
 - (株)アークシステム所属
 - Javaや.NETのWeb系技術者募集中！
 - プラグイン機構がウリのCMS「Kvasir/Sora」を開発
 - IPA未踏ソフトウェア創造事業に採択
 - 北欧神話好き
 - Skirnir、Kvasir、Ymirも北欧神話のキャラクターの名前です
 - 阪神タイガース好き
 - カーネルサンダースの呪いが解けて優勝できるか！？



今日お話しすること





今日お話しすること



- Ymirのおさらい
- 前回のカンファから今まで何をしていたの？
- 例のアレ
- Ymir-1.0リリースでYmirアプリケーション開発がどう変わるの？



Ymirのおさらい





もはや

Ymirを知らない人なんていない



なぜなら来てるのは
知り合いばかりだから T_T)



それはさておき

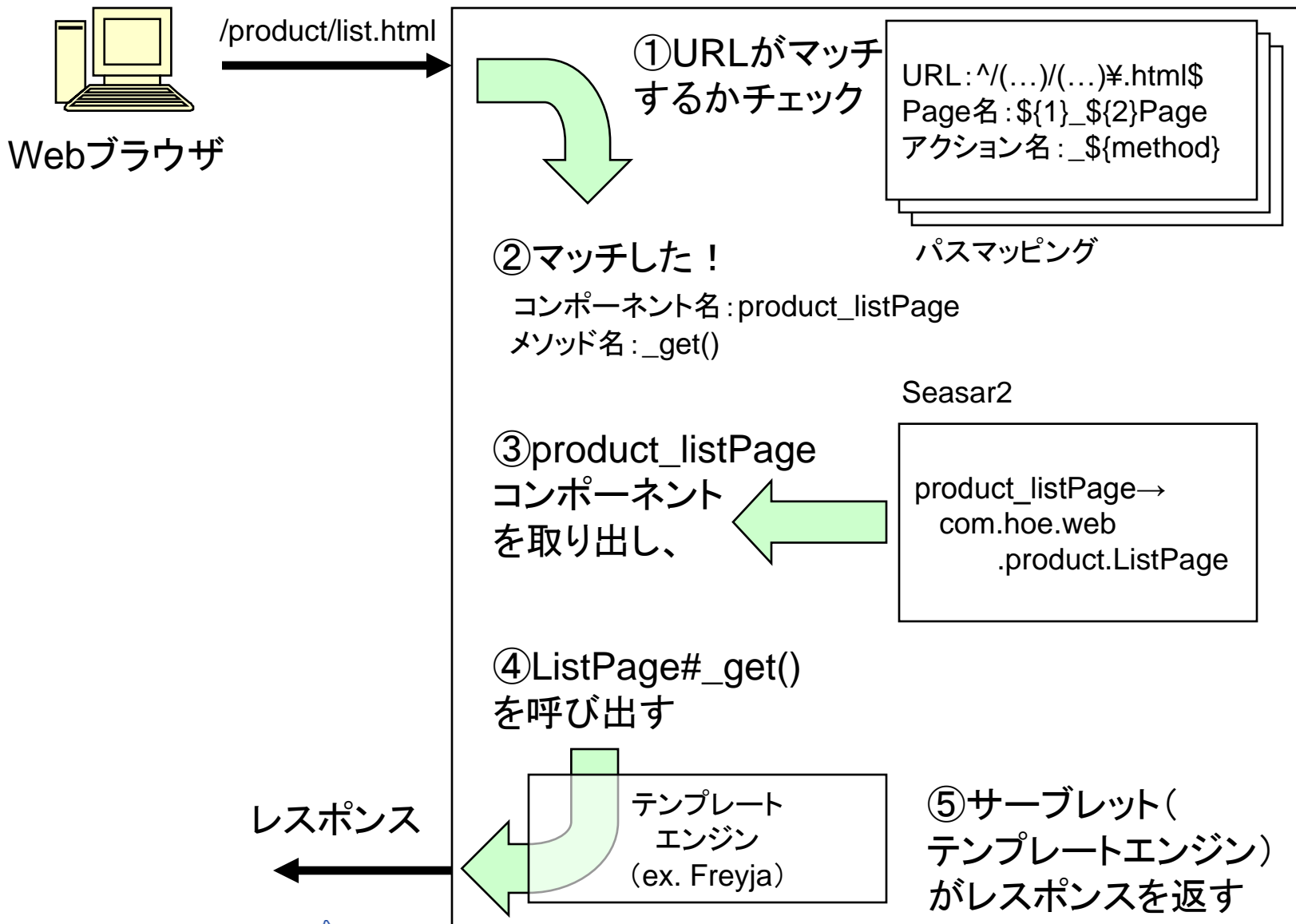


- フィルタ指向のシンプルなWebアプリケーションフレームワーク
 - 読み方は「ゆみる」
 - 北欧神話に出てくる巨人。血肉が世界の元となった。
 - 公式サイト: <http://ymir.seasar.org/>
- MVCモデルのCの部分を担当
 - お勧め構成はYmir+FreyjaのZPT実装+DBFlute
 - Freyja...XMLテンプレートエンジン構築F/W。ZPT実装を持っている。
 - <http://www.skirnir.net/product/freyja/>
- Seasar2.4のHOT deploy対応





処理の流れ





Pageクラス



```
public class IndexPage {
    public void _get() {
        // GETリクエストに対する処理。
        // この後、対応するHTMLテンプレートのレンダリングが行なわれます。
    }

    public void _prerender() {
        // レンダリングのための前処理はここで行ないます。
    }
}
```



```
public class LoginPage extends LoginPageBase {
    ...
    @Inject
    public void setAuthenticationLogic(AuthenticationLogic authenticationLogic) {
        this.authenticationLogic = authenticationLogic;
    }
    ...
    @Override
    @Required( { "account", "password" })
    @InvalidateSession
    public Response _post() {
        LoginPerson loginPerson = authenticationLogic.login(account, password);
        if (loginPerson != null) {
            setLoginPerson(loginPerson);
            return Redirect.to(MypagePage.class);
        } else {
            addNote("error.person.login.login.failed");
            return passthrough();
        }
    }
    ...
}
```



HTMLテンプレート (ZPT)



```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
 "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xml:lang="ja" lang="ja">
<head>
  <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8" />
  <title>ログイン</title>
</head>
<body>
  <h1>ログイン</h1>
  <ul tal:condition="notes">
    <li tal:repeat="note notes/notes" tal:content="note/%value">NOTE</li>
  </ul>
  <form action="/.login.html" method="post">
    <p>アカウント : <input tal:attributes="value account" name="account" type="text"
value="" /></p>
    <p>パスワード : <input name="password" type="password" value="" /></p>
    <p><input type="submit" value="ログイン" /></p>
  </form>
</body>
</html>
```



自動生成機構



SYSTEM NOTIFICATION

テンプレート/index.htmlの変更を検出しました。テンプレートに関連する以下のクラスを追加・更新します。追加・更新したくないものについてはチェックを外して下さい。

クラスのプロパティ型、Pageの親クラス、Dtoに対応するEntityクラスには以下のものを指定することができます。

- プリミティブ型(例:boolean)
- パッケージ名つきクラス名(例:com.example.dto.AaaDto)
- 空文字列(java.lang.Objectを指定したのと同じになります)
- Genericタイプを指定した型名(例:java.util.List<java.lang.String>)
- パッケージ名を省略したクラス名。パッケージ名が指定されなかった場合は以下の規則にしたがってクラスが見つかるまで探索します。
 1. パッケージ名として「java.lang」「java.util」を補完
 2. 所属クラス(Pageの親クラスについてはPage、Dtoに対応するEntityクラスについてはDto、プロパティ型についてはプロパティを持つクラス)のパッケージ、その親パッケージ、…を補完
 3. ルートパッケージ以下のクラスのうち名前が同じもの(複数ある場合は最初に見つかったもの)

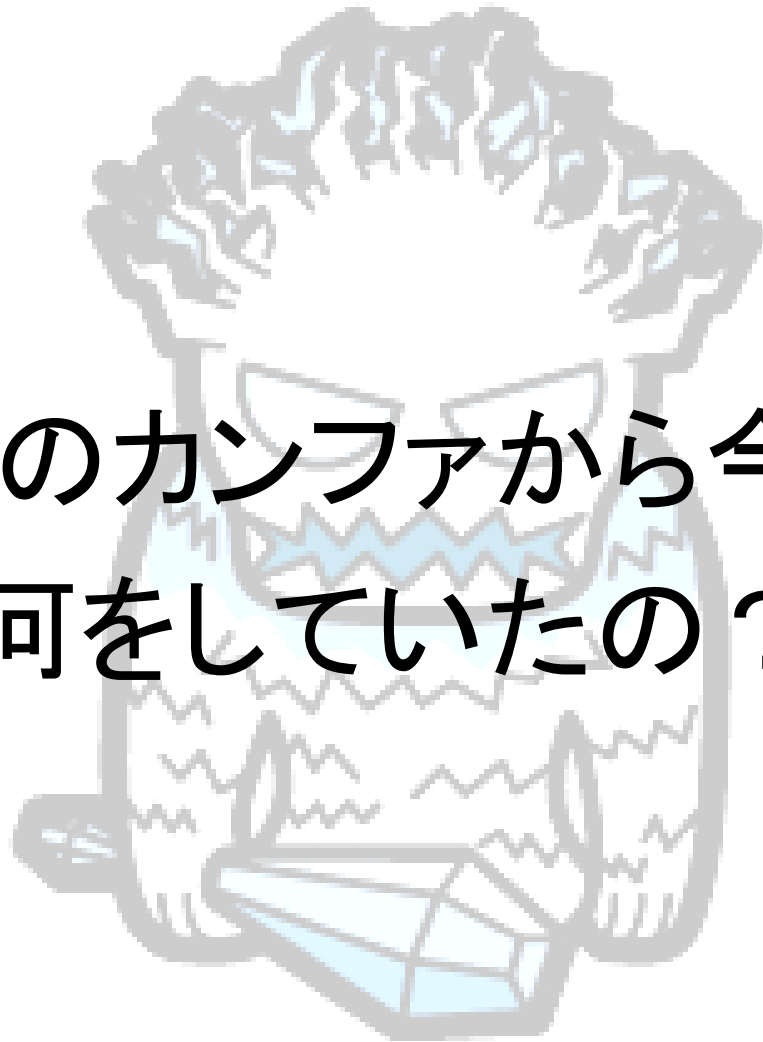
自動生成を行なう場合は「OK」ボタンを、今回は自動生成を行なわない場合は「スキップ」ボタンを、今回は自動生成を行わずに今後もこのテンプレートを自動生成の対象外にする場合は「無視」ボタンを押して下さい。

追加されるクラス:

- com.example.web.IndexPage 親クラス:
messageプロパティ



前回のカンファから今まで
何をしていたの？



前回のカンファから今まで何をしていたの？



- 向上のための改良
 - JIRA83件消化
 - Thanks to id:jflute & id:moon51
- 例のアレを開発
- Ymir-1.0リリース
- The Seasar Sandbox Project卒業



例のアレ



[タイムテーブルへ戻る](#)

S307会場 (定員200名)

❖ S307-1: 夢見るゆみる - 1.0リリースでYmirアプリ開発がどう変わるか -

講演者

横田 健彦 (YOKOTA Takehiko)
The Seasar Project, (株)アークシステム

概要

1.0をリリースしてSandboxプロジェクトから卒業したYmir。また開発支援Eclipseプラグイン「Vili(ヴィリ)」の登場でさらに効率化したYmirアプリケーションの開発手法についてご紹介します。

関連サイト

Ymir

[タイムテーブルへ戻る](#)

■ S307-2: Lead time weaving 系応がるAOPDの可能性



リリースして Sandbo
「Vili(ヴィリ)」の登
てご紹介します。



- Vili(ヴィリ)とは？
 - Ymirアプリケーション開発支援用のEclipseプラグイン
 - Odin(オーディン)とVe(ヴェー)の兄弟で、Ymirの血肉から世界を作った神様



- Viliが提供する機能
 - Ymirプロジェクトの生成機能
 - プログラム部品(フラグメント)の追加機能
 - JSON連携
 - AMF連携
 - メール送信
 - DBFlute
 - ...
 - その他便利な機能
 - Pageクラス \leftrightarrow HTMLを切り替える
 - HTMLをサーバで開く
 - HTMLから自動生成処理を起動



デモ： Ymirプロジェクトの生成機能



デモ：
プログラム部品（フラグメント）
の追加機能



ゲストによるデモ： DBFluteとのコラボレーション



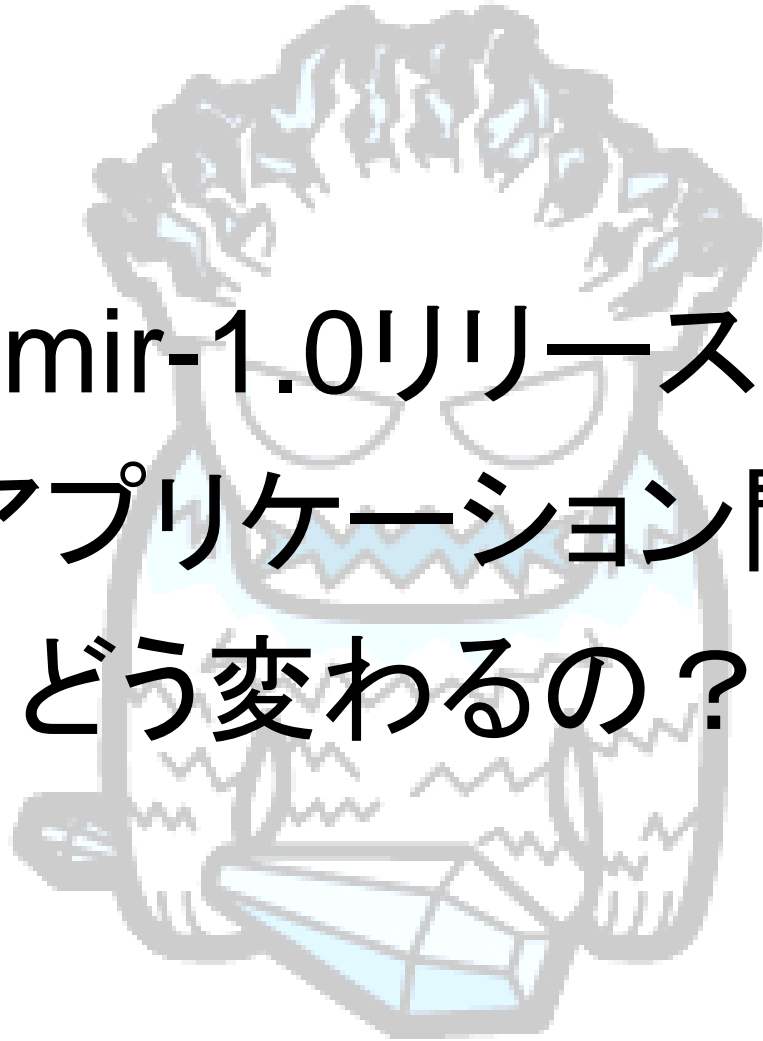
デモ： その他便利な機能



おまけデモ：
Ymirだけじゃないよ



Ymir-1.0リリースで
Ymirアプリケーション開発が
どう変わるの？





Ymir-1.0リリースでYmirアプリケーション開発が
どう変わるの？



4つのChange



Change1: プロジェクト立ち上げの高速化



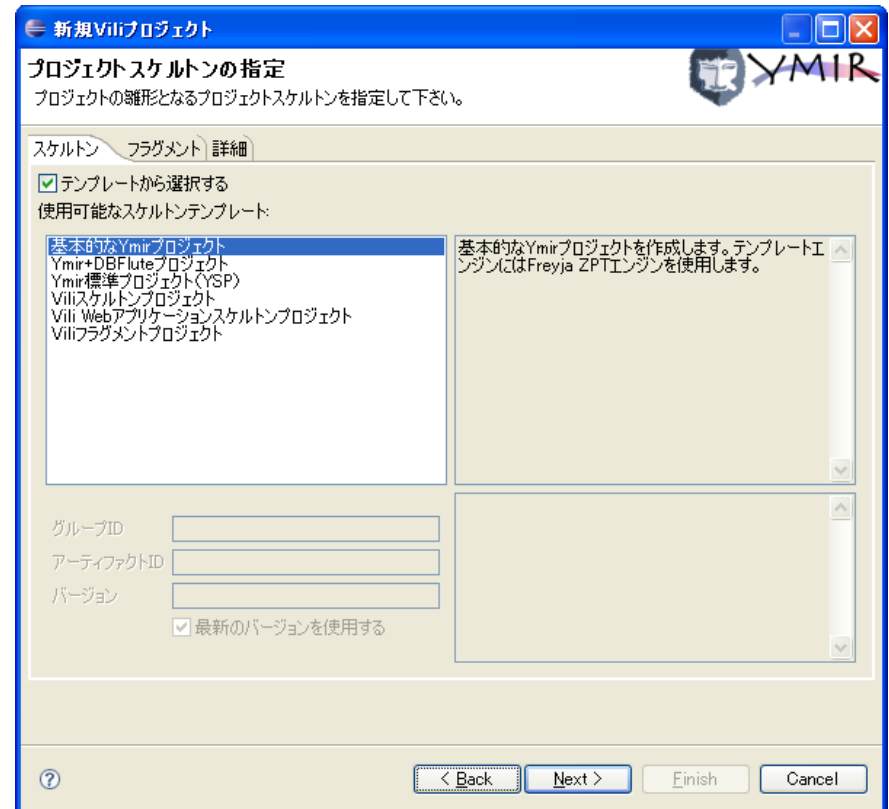
- 今まで
 - アプリケーションスケルトンをダウンロード
 - .project、pom.xmlを手で修正
 - Eclipseへインポート



プロジェクト立ち上げの高速化



- 現在
 - Viliでプロジェクトを簡単に作成





Change2:

支援機能による操作性の向上



- 今まで
 - 手動で行ったり来たり...
 - Eclipse ↔ ブラウザ
 - Pageクラス ↔ HTMLテンプレート



- 現在

- Viliによる操作支援

- Eclipse→ブラウザ
 - Pageクラス←→HTMLテンプレート

- ResourceSynchronizerとの連携

- ブラウザ→Eclipse

- HTMLテンプレート生成後にテンプレートをEclipse上でエディタで開く
 - Pageクラス生成後にソースコードをEclipse上でエディタで開く



Ymir-1.0リリースでYmirアプリケーション開発が
どう変わるの？



Change3: フラグメントによる プログラムの再利用性の向上



- 今まで
 - 同じような機能を毎回毎回作りこみ
 - ログイン機能
 - メール送信機能
 - ...
 - Ymirと別のライブラリを連携させたい時にどうセットアップすればいいか分からず試行錯誤
 - DBFlute
 - ...



- 現在

- プログラム部品をフラグメントとして提供
 - ユーティリティ
 - JSON連携
 - AMF連携
 - メール送信
 - 統合テスト環境 (Yonex)
 - DBFlute
- プロジェクトに簡単に適用可能



Ymir-1.0リリースでYmirアプリケーション開発が
どう変わるの？



Change4: 開発標準の提供による 開発効率の向上



- 今まで
 - 毎回毎回プロジェクトの規約を考える必要あり
 - パッケージ名規約
 - コーディング規約
 - URL名規約
 - ...



- これから
 - Ymirプロジェクトで開発標準を策定
 - <http://ymir.seasar.org/docs/1.0.x/ref/standardArchitecture>
 - 自由にアプリケーションを作ることが妨げるわけではない
 - 開発標準に沿ったプロジェクトスケルトンの提供
 - 通常のYmirプロジェクトのディレクトリ構成を手動でいじる必要はない
 - 開発標準に沿ったプログラム部品を容易に適用可能
 - ログイン機能
 - CRUD機能(α版)
 - ...



ちなみにこれ



YSP



と言います



Ymirは

すげーよ

ハンパねえ

Ymir wa **S**ugeeyo, ham**P**anee



...ではなく



Ymir 標準 プロジェクト

Ymir Standard Project



の略です



おわりに



おわりに



- Eclipseプラグイン「Vili」を中心に、Ymir-1.0におけるアプリケーション開発の変化についてお話ししました
- まだまだマイナーな存在ですが、実案件に適用して下さる会社さんも出てきました
 - 旅行支援サイト「あっとま〜る」
 - <http://atmaru.net>
 - 30人月規模
 - アプリ4本(エンドユーザ向けPCアプリ、携帯アプリ、宿側管理アプリ、システム管理アプリ)
 - 4月中に携帯版をオープン、6月中にPC版をオープン予定
 - 開発会社さまより一言:「夏休みのご予定は、ぜひ「あっとま〜る」をご利用ください」
- 実案件での使い勝手をさらに向上させることを目指していきます
 - DBFluteプロジェクトとのコラボレーションの継続
 - プログラム部品の提供
 - 開発標準の整備



おわりに



最後に一言：



おわりに



あなたはとっつきやすさや
知名度だけで
F/Wを選んでいませんか？



おわりに



それでは開発効率は上がりません



おわりに



開発現場を楽にするため
考えを変えましょう



おわりに



Yes, we can



おわりに



ご清聴ありがとうございました